

|                     |                                         |            |     |
|---------------------|-----------------------------------------|------------|-----|
| 平成29年度第3学年 学年通信     | Boys and girls , be<br><b>Ambitious</b> | 第7号(通算95号) |     |
| 『自立と協調～そして感謝と思いやり。』 |                                         | 5月         | 31日 |

## 大石さんの半生を描いたドキュメンタリー『又七の海』を見ました

大石又七さん(今年で82歳)は、19歳のときマグロ漁船第五福竜丸に乗っていてアメリカの水爆実験に遭遇し、被曝しました(1954年3月1日)。以後、船員をやめてからは故郷の静岡県を離れ、東京でクリーニング店を開業します。

30年ほどひっそり暮らしていたのですが、ある時偶然、第五福竜丸(その時は、名前を変えていましたが…)が東京の「夢の島」というゴミ処理場に捨てられているのを耳にし、いてもたってもいられなくなります。もしかして、アメリカや日本政府に見捨てられた(かのような)自分たち乗組員の姿をそこに重ね合わせたのかもしれない。その後、大石さんは福竜丸事件の体験を語ることを始めます。まるで、それが天職であるかのように…。放射線を浴びたことは、当時の日本では言われなき差別を受ける場合も多かったので、本来なら隠しておきたいことでしたが、大石さんは使命感と若者への期待感をもって、体験を語る活動に踏み出しました。まったくのボランティア活動です。今まで、四日市の数多くの中学生も修学旅行でお話を聞かせてもらってきました。実際、大石さんの著書にも、桜中、大池中などおなじみの校名がでてきます。本当なら、今回も大石さんご本人のお話をお聞きしたかったのですが、体調やスケジュールの面でできませんでした。

大石さんの半生を描いたこの番組を見ることで、大石さんの想いをしっかりうけとめ、生きざまを少しでも感じてもらえたら…と思います。感想を一部紹介します。

●今日は又七さんのドキュメンタリーを見ました。爆発する様子がとても印象に残りました。今も放射線で苦しい想いをしている人がいるのは悲しいです。

●今日、平和学習をしていろんなことを学びました。死の灰は少しでもあびると毛がぬけてしまったり、血を吐くことも知りました。怖いなと思いました。

●今日はDVDを見ました。模型がすごかった ←目の不自由な人でも話が伝わるよう

●放射能はすごく怖いと改めて思った。 にと大石さんがつくった福竜丸の模型

●今日はDVDを見ました。改めて原水爆の映像を見て怖いなと思いました。

●今日、大石さんの話を聞いてひとごとじゃない気がしてきました。

●放射線は浴びた人もつらいし、浴びた後の周りの対応が冷たすぎると思った。

●死の灰をかぶって被曝した人たちは本当に気の毒な思いをしたんだなと思った。二度とこのようなことを起こしてはいけないなと思いました。



↑ DVDを見た後感想を書く生徒たち

いつまでも、今のその気持ちを忘れずに！